戦争のない世界を 非核平和のまちづくり

平和を誓う 戦没者 追悼式

8月の終戦記念日を前に、洞爺と虻田の両地区で、戦没者追悼式が行われ、先の戦争で犠牲になった方へのご冥福を祈りました。

洞爺地区は、7月24日洞爺小公園の一角にある忠魂碑前で行われ、遺族や関係者約50人が参加しました。

戦没者に白い菊を手向ける遺族ら

遺族を代表して鈴木孝洞爺湖町遺族会洞爺地区代表が「歴史の悲劇を繰り返さず、平和の尊さを訴えていきます」と追悼の辞を述べました。

8月24日には、虻田地区において同式典が、青葉にある忠魂碑前で行われ、遺族や関係者約60人が参加しました。

長崎町長は、「郷土がサミットを開催するまでに発展を遂げました。これからもふるさとの行く末をお守りください」と式辞を述べました。

最後に参列者全員が白い菊を手向け式典を終えました。

「洞爺湖町 非核平和の町宣言」

戦争ほど悲惨なものはなく、また、平和ほど尊いものはない。

永遠の平和を実現することは、世界共通の願いである。とりわけ核兵器を廃絶し、核戦争の恐れのない世界を構築することは、ただ一つの被爆国日本の崇高なる使命である。

また、日本国憲法の平和主義の原則にもとづき、美しく豊かな郷土の自然を守り、平和な未来を子供たちに引き継ぐことは、私たちに課せられた責務である。

２００８年北海道洞爺湖サミットの開催年を迎えるにあたり、私たちは、核兵器を「持たず・つくらづ・持ち込まず」の三原則をまもり、恒久平和の実現を願って、ここに「洞爺湖町非核平和の町宣言」をするものである。

平成20年３月19日
洞　爺　湖　町
洞爺湖町議会

核兵器のない社会へ 戦争と平和展

8月18日、「'08戦争と平和展」（主催洞爺湖町・'08戦争と平和展実行員会）が、役場ロビーで行われました。

今年は、町が3月に「非核平和の町」宣言を行ったこともあり、町と実行委員会が共催して実施。

原爆のパネル写真や戦争経験者のメッセージが添えられた作品などが展示されました。同時に原爆の悲惨さを記録した映画の上映会行い、核兵器のない平和な町づくりを訴えました。

社会科の授業の一環で、見学に訪れた虻田小学校の児童らは、原爆の悲惨な写真に見入っていました。

23日には、「戦争を語りつぐつどい」がさわやか別館で行われ、すいとんを食べながら、戦争当時を振返りました。

会場で説明を聞く子供ら